

激震

震度7の地震が

白石を襲うとき

8月30日から9月5日まででは防災週間です。大地震や豪雨などの自然現象は、人間の力で食い止めることはできませんが、日ごろの努力で災害による被害を抑えることが可能です。いざというときにあわてないように、防災について考え、家庭で話し合ってみましょう。

大正12年9月1日午前11時58分32秒。関東大震災。

平成7年1月17日午前5時46分52秒。阪神・淡路大震災。

この2つの震災はともに最大震度7の激震で、大都市で起きた大規模災害の象徴として歴史に刻まれています。

現在、札幌市は、これらの震災に匹敵する最大震度7を想定した防災体制の見直しを進めています。

【札幌で大地震が起きるのか】

国の調査機関である地震調査研究推進本部では、札幌を含む周辺を「今後30年以内に震度6弱以上の地震がやや起こりやすい地域」と定めています。

また、市内の遺跡調査では札幌の直下で過去数千年間に4回の大地震が起きた跡が見つかっており、今後同じような大地震が起きないとも限りません。

「第3次地震被害想定」に見る白石区の被害状況

「第3次地震被害想定」では、震度6弱から7の地震を設定し、これに伴う最大の被害を想定しています。震度6弱では、立っていることが困難で、固定されていない家具の大半が移動・転倒し、ドアが開かなくなります。震度7では、耐震性の低い建物が倒壊する可能性があります。

死傷者数

	夏季	冬季
死者※	264人 (1,789人)	1,275人 (8,234人)
負傷者	4,503人 (30,623人)	4,406人 (30,414人)

※冬季の死者数は、建物の下敷きになり閉じ込められた人が2時間以内に救出されない場合に凍死する人数を含みます。

避難所・帰宅困難者

	夏季		冬季	
	発生直後	1週間	初日	1週間
避難場所生活者	5,484人 (39,055人)	18,988人 (135,928人)	9,526人 (74,107人)	7,093人 (50,428人)
帰宅困難者	1,777人 (44,066人)		3,217人 (83,142人)	

建物倒壊・火災

	夏季		冬季	
	全壊	半壊	全壊	半壊
建物	4,446棟 (30,218棟)	9,339棟 (71,073棟)	4,955棟 (33,611棟)	10,342棟 (78,850棟)
火災	10件 (70件)		44件 (314件)	

※表内のかっこ内数は全市の数値

ライフライン

	発生直後	1週間
上水道 (断水)	83.4% 64.7%	33.5%
電力 (停電)	17.5% 2.4%	0%
都市ガス (供給停止)	100% 98.4%	
下水道 (排水困難)	1.5% 0.6%	

【注意】被害想定は、今後の地震防災対策を進めるために作成したものであり、大地震の発生を予知したものではありません。

詳細 危機管理対策室
☎211-3062

